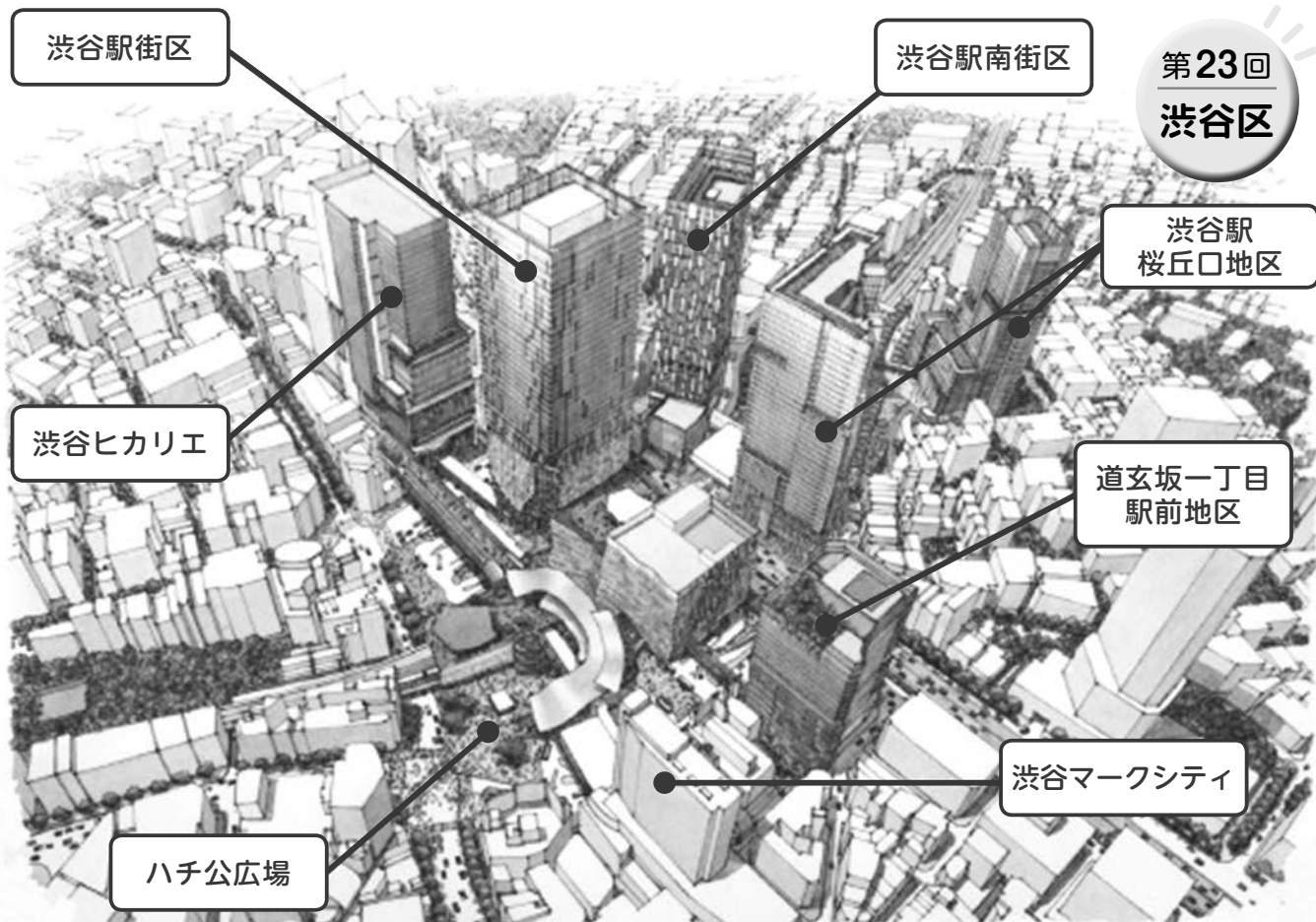


渋谷の将来像がイメージされている模型が渋谷ヒカリエにて展示されている  
(SHIBUYA FUTURE VISION)



第23回  
渋谷区

## 百年の計 渋谷のまちづくり

### ～渋谷区が取り組む渋谷駅周辺整備の施策～

渋谷駅を中心とした駅周辺では東急東横線と東京メトロ副都心線の相互直通運転化、渋谷駅街区土地区画整理事業による東口の工事など、まちの再編整備が進んでいます。「渋谷ヒカリエ」の開業などによって渋谷の新しいまちの姿に注目が集まっていますが、今後さらに渋谷駅周辺の都市基盤の再編整備、それと連携した大規模な開発計画が進むことで、これまで以上に人のにぎわいを呼ぶ、だれもがめぐり歩いて楽しいまちとなります。今回は、渋谷駅周辺整備の動向と区の施策、取組、渋谷のまちの将来展望について取り上げます。

### 変わり始めている 渋谷のまち

#### 渋谷駅周辺の近況

渋谷駅周辺では、ここ数年で大きな変化が起っています。平成24年4月26日に渋谷駅東口で渋谷ヒカリエが開業し、その後1年で来場者が2000万人を超えるなど渋谷の新しいランドマークとして印象付けられました。

平成25年3月16日には、東急東横線と東京メトロ副都心線の直通運転が始まり、東京都北西部や埼玉県からも渋谷のまちにアクセスしやすくなりました。

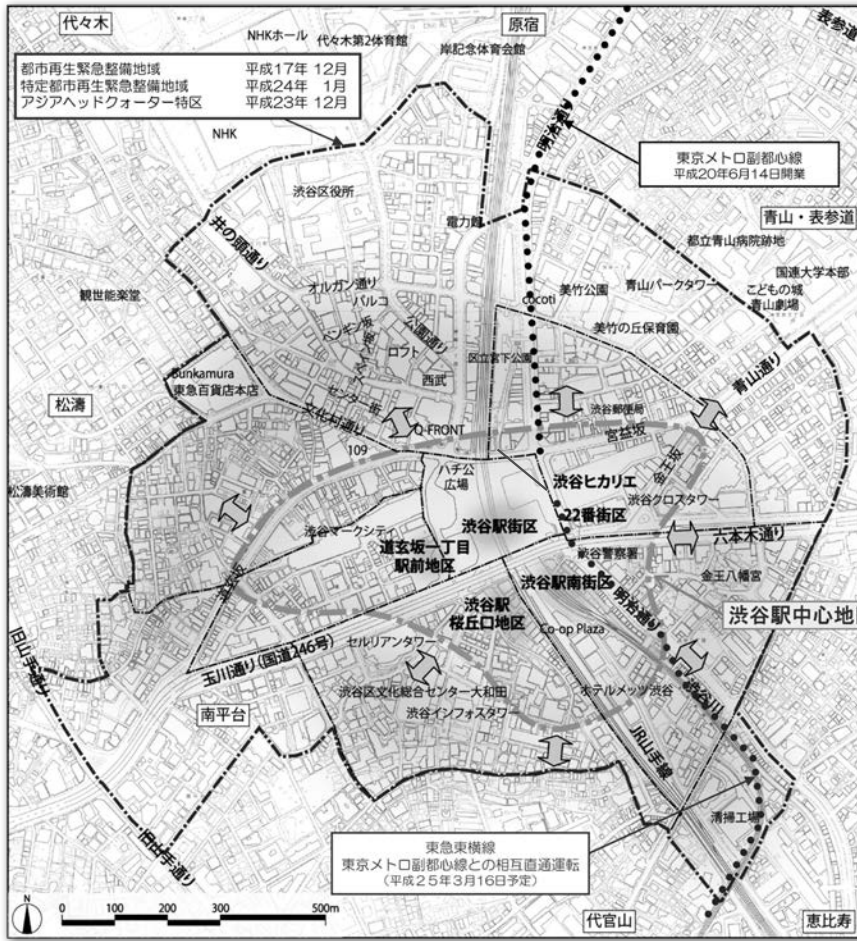
また、建築家安藤忠雄氏による「地宙船」をテーマにした駅のデザインは斬新さとともに自然換気システムや放射冷却システムの導入など環境に配慮した点も大きな話題になりました。

一方で、日本初の食品名店街「東横のれん街」（現在は渋谷マークシティに移設）などがあった東急百貨店東横店東館は平成25年3月31日に創業から78年の歴史に幕を閉じました。

また、かまぼこ型の屋根が特徴的で渋谷の象徴にもなっていた東急東横線渋谷駅も、地下化に伴い、平成25年3

## ■ 渋谷駅周辺の整備計画の範囲

渋谷周辺の整備計画は駅周辺の広範囲に及ぶ



月15日にその利用を終了し、一時的に「イベントスペース」「SHIBUYA ekia to」<sup>1</sup>として使用された後、現在は取り壊しが進んでいます。渋谷駅周辺は、現在まさに次の百年に向けて少しずつ変わろうとしています。

## 渋谷のまちづくり、動向と方向性

### 渋谷駅の周辺整備が行われる理由

最先端の文化が感じられる渋谷のまちですが、以前より駅施設の耐震性やバリアフリーへの対応、JR線横断動

線の不足や鉄道の乗換えが複雑でわかりづらいといった課題があり、駅施設の機能を再編整備する必要があります。また、

そこで、区では、平成17年12月の「渋谷駅周辺地域」が「都市再生緊急整備地域」に指定されたことを受け、公民パートナーシップによる都市再生を進めています。

平成19年9月にまちの将来像を示す「渋谷駅中心地区まちづくりガイドライン2007」、平成23年3月には「渋谷駅中心地区まちづくり指針2010」(以下、「指針2010」という)を策定しました。

平成20年6月には都市基盤の考え方を示す「渋谷駅街区基盤整備方針」を、平成24年10月に「渋谷駅中心地区基盤整備方針」を策定してきました。そして、これらの上位計画に基づき、適宜道路等の都市施設、地区計画、市街地再開発事業等の都市計画手続きを進めてきました。

### まちをめざす方向性

指針2010では「世界に開かれた生活文化の発信拠点『渋谷』のリーディングコア／広場・坂・路面店を活かした、めぐり歩ける、環境と共生する

まちをめざして」を将来像として、7つの戦略にまとめてまちづくりの具体的な指針を定めています。

例えば、駅前広場の整備では、人と車両の錯綜の改善、街区の整形化のため、土地区画整理事業によりバスターミナルやタクシー乗り場の交通広場を再編・集約・整理します。そうすることで、広場空間を創出し、人間が中心となる空間、つまり安全で快適な歩行環境を形成していきます。

また、アーバン・コアの整備により「多層な都市基盤やまちを上下につな

「渋谷駅中心地区まちづくり指針2010」



この2つが渋谷駅周辺整備の主な道標となる計画です。



「渋谷駅中心地区基盤整備方針」

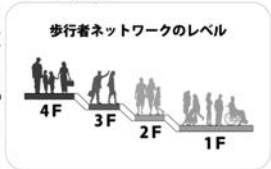
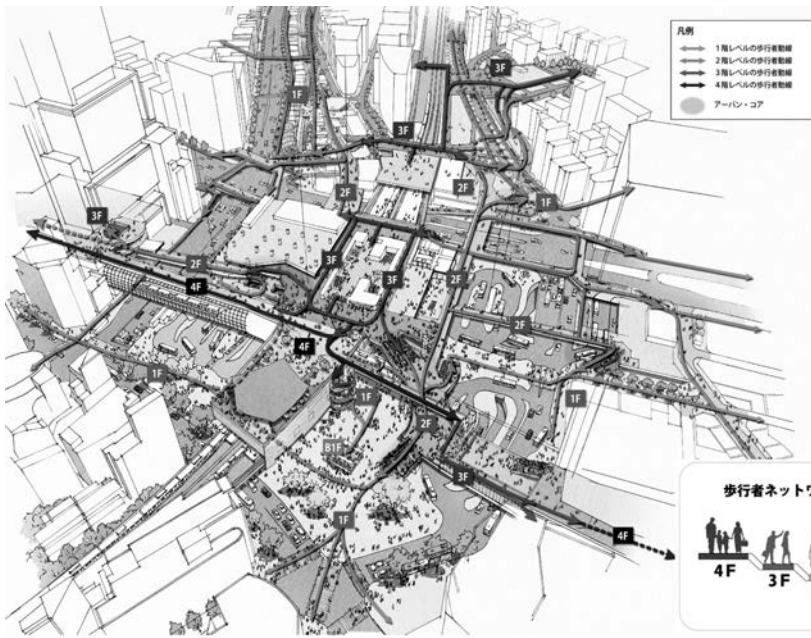
大田区  
北区  
港区  
葛飾区  
板橋区  
世田谷区

荒川区  
新宿区  
江戸川区

練馬区  
渋谷区

特別区競馬組合

渋谷駅中心地区における歩行者ネットワーク  
 公民連携した整備によりまちとまちの繋がりが強化される



ぎ、地下及びデッキから地上へ人を誘導し、わかりやすく、人にやさしいまちの実現をめざします。

渋谷駅周辺のまちづくりの基本となる7つの戦略に沿った整備により、国際的な観光文化都市としてだけでなく、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックも見据えた、国際競争力及び防災力の強化をめざした都市再生につなげていくとしています。

## めぐり歩いて楽しい まちにするために

### 歩行者ネットワークの強化

渋谷駅中心地区は原宿、青山、代官山などといった個性的な周辺地域を結ぶ歩行者ネットワークの起点となっており、これらの地域をつなぐ道沿いには路面店が広がり、まちの魅力を創出し、まち歩きを楽しさを生み出しています。

一方で、渋谷駅中心地区では、幹線道路やJR線によるまちの分断や多層にわたる駅施設によるわかりづらさなどの課題を抱えています。

これらの課題を解決するための歩行者ネットワークの整備は、地上部を主として周辺地域とを結ぶ開かれた歩行者ネットワークを強化します。また、駅が谷底に位置していることもあり、2階〜4階レベルのデッキによるネットワークの強化も図っていきます。さらに、複数の地下鉄や地下の広場、駐車場といった地下施設の利便性向上のため、地下のネットワークも整備していきます。

地上部における歩行者ネットワーク整備の1つには、渋谷駅の北側を東西に貫く宮益坂及び道玄坂の道路整備事業

業（旧大山街道歩行空間拡幅事業）があり、昨年度から快適な歩行空間の形成に向けて検討を開始しています。

このように、道路整備事業や渋谷駅中心地区における大規模再開発ビルと連携した整備により、渋谷駅周辺を東西南北に結び、多層にわたる歩行者ネットワークを実現していきます。

### 新たな広場空間の創出

ハチ公広場は、1日約20万人が通過し、世界にもよく知られているスクランブル式交差点を抱える駅前広場です。

しかし、実際は広場といっても、信号待ちや駅への動線として常時多くの人であふれかえっている状態であり、人が憩い・たまり・交流できる広場空間とはなっていない。この「憩い・たまり・交流できる広場空間」をどのように創出するかが大きな課題でした。さまざまな観点から検討を行った結果、渋谷駅街区土地画整理事業により、ハチ公広場は約1・5倍に、東口広場は約2倍強に拡大し、また西口に新たな広場空間の創出を図ることとなりました。

地域や訪れた人のための広場は、指針2010の戦略に基づき、公共空間のみならず、大規模再開発敷地内にも



整備を誘導しており、渋谷駅中心地区には多くの広場空間が整備されることになっています。

これらの広場空間の活用にあたっては、それぞれを連携させることにより、「渋谷に来るといつも何か面白いことをやっている」、「また来たい」と思ってもらえるような空間づくりをめざしています。

## 情報発信の取組

### シブヤパブリック展

渋谷駅周辺の再開発事業は長期にわたることから、ダイナミックな将来開発計画と、渋谷らしさを強化するまちづくりの取組を発信することで、さまざまな人からご意見をいただき、

海外からの観光客も多く訪れる  
ハチ公広場・スクランブル式交差点



シブヤパブリック展のチラシ  
第二弾、第三弾も予定...

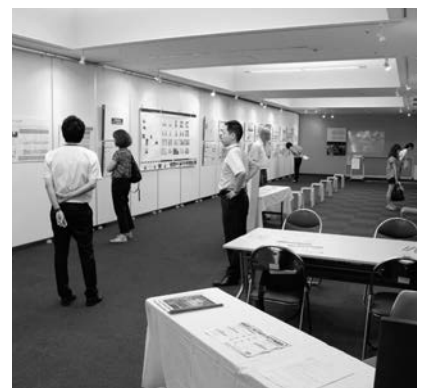
渋谷駅周辺のまちづくりに活かすことが重要となります。

そのため、区では、本格的な工事期間へと突入した今年の8月に、情報発信の第一弾として「シブヤパブリック展」を開催しました。展示内容は、「都市基盤整備計画の全体像」、「公共空間のデザインコンセプト(案)」、「大規模建築物のデザイン調整の取組」の3つの切り口としました。

「都市基盤整備計画の全体像」では、安全で快適な都市基盤の整備をめざし、検討を進めてきた駅前広場、東西自由通路、鉄道改良、多層にわたる歩行者ネットワーク、そして防災対策についての計画及び考え方を示しました。

「公共空間のデザインコンセプト(案)」では、これまで渋谷らしさを形成してきた文化と、これからの開発により創られていく新たな文化の融合が必要と考え、これらが重なり合うことにより、さまざまな世代の居場所が創られていく。パブリックスペースの捉え方、考え

方を提示しました。「大規模建築物のデザイン調整の取組」では、同時進



シブヤパブリック展には多くの来場者があり、情報発信の場となった

行する複数の大規模再開発が、渋谷らしさの強化、景観・デザインの質的向上をめざし、周辺地域との調和・連携を図ってきた、そのプロセスと考え方を紹介しました。

このシブヤパブリック展は、8月5日〜17日までの13日間開催し、1200名を超える人に来場していただき、そして約700人からアンケートのご協力をいただきました。展示資料やアンケートの集計結果等は区のホームページに掲載し、広く皆さまに見ていただけるようにもしています。

いただいたご意見等は、公共空間のデザインコンセプトやエリアマネジメント等に活かしながら、渋谷駅周辺のまちづくりの中で具体化していくとともに、今後も情報発信を第二、三弾と開催し、長期にわたる工事期間において

## みんなで育てるまちになるために

### 協働型まちづくりによる渋谷の将来像の具現化

渋谷のまちづくりは、これまで各地域団体がエリアマネジメント等を実施してきましたが、これらに加えさらに、渋谷の魅力が高めるため、渋谷駅中心地区の大規模再開発事業者が主体となった協議会も平成25年5月に発足されています。「渋谷駅前エリアマネジメント協議会」がその名称であり、「遊び心で、渋谷を動かせ」をキーワードに、渋谷のまちの魅力を駅前から発信する「SHIBUYA+FUNPRO JECT」を実施しています。このプロジェクトでは、大型都市模型による将来像の情報発信や仮設通路の装飾による工事現場のにぎわい創出、ウェブサイトによるマップ等の配信、地域と連携したイベントの開催などが行われています。

このように、渋谷駅周辺では、多くの関係者が、さまざまな形で渋谷のま

ちの魅力向上に寄与しており、長期にわたる工事期間も、みんなで盛り上げていこうという気運があります。

区としても、渋谷のまちの魅力を向上し、そして発信し続けるため、地域の方々、来街者、開発事業者等、多くの関係者と協力・連携しながら、渋谷駅周辺の都市再生を進めていきます。

#### ※アーバン・コア 建築家内藤廣氏提案

- ①多層な都市基盤やまちを上卡につなぎ、地下及びデッキから地上へ人を誘導。また、横方向への動線を結ぶユニバーサルデザインに配慮した縦軸空間。
- ②広場等のパブリック空間とも接した立体的なクロスポイント。
- ③人が快適に移動でき、憩い・集える空間。
- ④視認性が高く、まちに対して開かれた駅前のランドマーク。



1/500の将来模型を展示している  
(ヒカリエ11F)



渋谷らしいにぎわいを感じられる仮設通路